

JEFO

～ 白い小箱だより～

平成26年 7月 1日 号 外 版
発行：一般社団法人日本非常食推進機構
住所：三重県四日市市浮橋1丁目4-3
TEL: 059-328-5345 / FAX: 059-351-1917
<http://shiroikobako.org/index.php>
E-mail: nrj44425@nifty.com

災害用備蓄食品を活用したフィリピン共和国への食糧支援『フィリピン絆プロジェクト』始動

【背景】

東日本大震災を期に、非常食の備蓄が呼びかけられ、行政はじめ各種団体、企業の防災備蓄が進んだ。その備蓄食料は、賞味期限が切れる時期を迎えました。

非常食も年々進化し、より良く賞味期限も長くなってきているとはいうものの、必ず入れ替えは必要となります。

大量の非常食は、賞味期限を間近に控え、有効に使われているでしょうか？

防災訓練をはじめ、企業内では、従業員さんに配ったり、一部は、有効に利用されているように思われますが、大半は、見えないところで廃棄処分されているのが現状です。

【目的】

昨年の台風（ヨランダ）被害同様に、本年も台風災害が懸念されるフィリピン共和国に対し、あらかじめ身近に備蓄品を備えていただき、フィリピンでの備蓄教育と同時に日本国内での備蓄品の入れ替えをうながすことを目的とします。

【フィリピンでの備蓄後の活用】

フィリピンの台風シーズンが終わる12月に備蓄食品を生活困窮者に対し、食糧支援品として活用していただきます。

【支援計画】

- ・回収対象者：行政、企業、団体
- ・備蓄品引き渡し予定日：平成26年10月
上旬から中旬
- ・回収受付：平成26年8月15日～8月31日まで
- ・回収場所：三重県四日市市昌栄町8-12
TEL 059-351-1919 FAX 059-351-1917
株式会社 シルバーフードサービス
- ・回収方法：上記場所まで持ち込み又は、配送便にて
- ・賞味期限：**平成27年1月31日以降のもの**
- ・回収物資：アルファ米、缶詰めパン、ビスケット、クラッカー、飲料水、缶詰類、レトルト食品類
- ・物資管理及び支援方法
フィリピン国内において物資の管理及び食糧支援はインターナショナルDSWDにて行う。
- ・協賛依頼：上記活動に対し、物資提供と合わせて活動協賛金も頂けたら幸いです。
- ・活動報告：活動報告は、メール、FAX等ご指定の方法にてフィードバックさせていただきます。

【主催】（一社）日非常食推進機構・NPO法人WBA

【協力】社会福祉開発省（インターナショナルDSWD）
国際移住機関（IOM）フィリピン外務省（UNIO）

【後援】外務省

【協賛】ホームページ参照

国際移住機関（IOM）駐日代表 ウィリアム・バリガリピン氏のコメント



(英)

The concept of making good use of about-to-expire emergency food stock of the Japanese institutions is an innovation that is both practical and humanitarian. Thank you JEFO.

William BARRIGA, Chief of Mission, IOM Tokyo

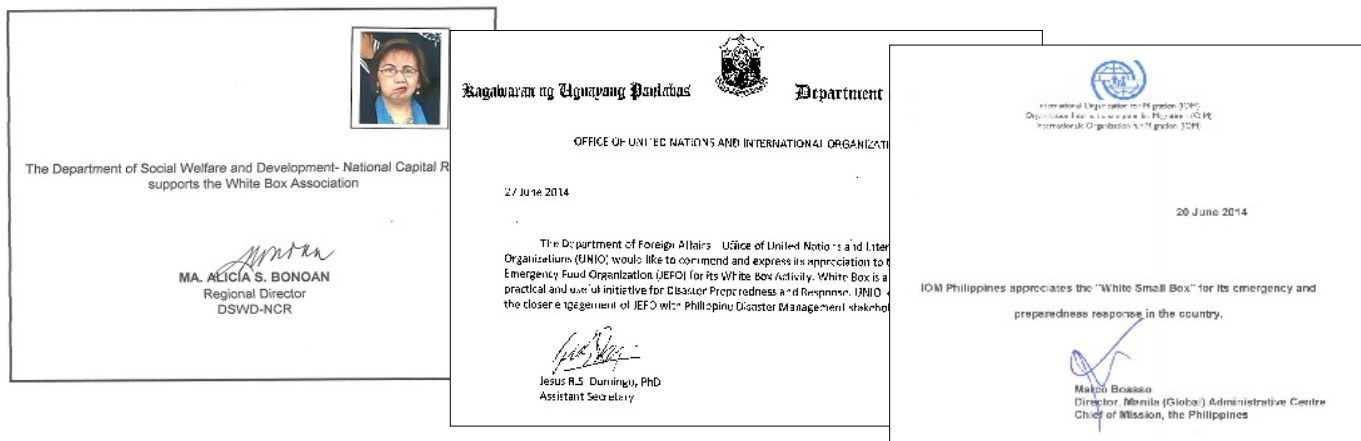
(日)

賞味期限の迫った非常用備蓄食料を有効に活用するこの試みは、現実的にも人道的にも革新的です。JEFOに感謝します。

国際移住機関（IOM）駐日代表 ウィリアム・バリガ

『フィリピン絆プロジェクト』の活動支援にご協力をお願いします。

DSWD、UINO からも支援の IOM 同様の感謝コメント頂きました。



愛知県 A 社 2 部門より備蓄品の提供申し出を頂きました。

缶入りカンパンやアルファ米、保存水など想定総重量で 9000kg の廃棄前備蓄品の提供申し出を頂きました。この総重量を実際に廃棄する場合、約 40 万円の廃棄コストが必要となる。

そこで「白い小箱運動」や「フィリピン絆プロジェクト」でまだ活用出来る備蓄品を有効利用、また社会貢献事業に役立てたいとのご判断である。

廃棄予算の一部でも「白い小箱運動」や「フィリピン絆プロジェクト」へご協賛下さい

実際には必要であった廃棄コストを、この「白い小箱運動」や「フィリピン絆プロジェクト」にご協賛またはご寄付をお願いしています。

この運動を長期に実施していくための予算は、この運動に賛同して頂ける皆様からの会費・協賛費・寄付から成り立っています。しかしながら、ボランティア的に始まったこの運動を維持していくだけの活動費は疲弊しているのが現状で、安定した運営継続にはまだまだ予算が足りません。

「いつ起こるわからない災害」、自分の身は自分で守る自助の精神だけでなく、みんなで守りあう「共助」の精神にご協力下さい。